

静岡  
SHIZUOKA

## 日本風景街道

～なごみの伊豆 なごみの道～

開国の歴史や文学の舞台となった下田街道（国道136号、414号）、熱海、伊東などの温泉地が連なる伊豆東海岸線（国道135号）、夕日の美しい伊豆西海岸線（国道136号）は、観光交流客数4,400万人／年、宿泊客数1,200万人／年という全国有数の観光客を支える大動脈である。

従来、道路は、モノや人を運ぶという一次機能の充実が最優先され、地域の自然・歴史・文化・風景とのかかわりが論じられることは少なかった。しかし今日では、「景観緑三法」のような地域の美しい景観を守っていくための法整備や社会貢献に対する意識の高まりから、住民の積極的な参加により、道路に対する多様なニーズに対応するための取組みが進められている。

伊豆地区においても、新しい国の道路政策として打ち出された「日本風景街道」に、NPO伊豆等が呼びかけて発足した「伊豆の道会議」が中心となり、「なごみの伊豆 なごみの道」としてエントリーした。そして、6月には、伊豆の道風景を住民主体で守り、ミガキアゲ、活かしてい



ふるさとの歴史を次の世代に「下田街道子どもワークショップ」



伊豆の道のあり方を探る「伊豆のみち」ワークショップ会議

くことを活動目的に、地域団体、企業、国、地方自治体らがパートナーシップを組み、「なごみの伊豆 なごみの道推進会議」が旗揚げされた。

初年度の重点事業は、伊豆の道を「中通り」「東通り」「西通り」の3通りに分け、各地域において行われている活動を相互に紹介するプレゼンテーション、フォーラムの開催。次いで、「伊豆の道会議」が主管している「伊豆の道風景30選」（伊豆地域の美しく魅力的な道、次世代に伝え、守っていききたい価値ある道風景）の選定への協力と選定後の活用事業への積極的参加などのネットワークの拡大・充実及びサポートに関する事業である。

伊豆は1つという言葉と同時に、伊豆は1つ1つという言葉がある。各地区で輝いている人・モノ・コトをつなぐことにより地区の風景をつくり、これらを道でつなぐことにより、新たな価値を創造することができよう。そのプラットフォームに「なごみの伊豆 なごみの道」がなればと思う。

神奈川  
KANAGAWA

## 横浜ブランドの車お目見え

かわいらしいボディに、ハマの香りをいっぱい詰め込んだ横浜限定車「Muetto（ムエット）」がお目見えした。地元の企業や大学、団体などが参加する研究会「hamawaza（ハマワザ）」が、横浜市の支援を受けて開発。200台限定生産で受注を開始した。

ムエットはフランス語で「カモメ」の意。「横浜のライフスタイルをデザインする」をコンセプトに、大切な人と、時には一人で軽やかに人生を楽しむための車を開発した。といっても全くの新車ではなく、ベースは2010年横浜に本社移転を計画している日産自動車のコンパクトカー「キューブ」。

リア部を大胆にカットして大型の荷物が積めるトランクルームを設け、乗車定員を二人に減らした。フロントグリルにはカモメのモチーフをあしらひ、車体はムエットブルーと呼ぶ深い青色で塗装。シートは白い人工皮革を使い、ブルーとのコントラストでおしゃれな雰囲気を演出した。

また、元町の有名店とコラボレーションしたクッション（近沢レース製）、キーケース（同）、キーホルダー（キタムラ製）を標準装備。オプションとして、ムエットブルーでコーディネートしたボストンバッグ（同）、ドライビングシューズ（同）、アンブレラケース（近沢レース製）なども用意した。

さらに高速道路だけでなく、横浜市内の駐車場やガソリンスタンドでの支払いがハンズフリー＆キャッシュレスになる多機能型ETCも標準装備。一部の駐車場やホテルでは、料金の割引サービスも受



横浜・元町の街角には「Muetto」が良く似合う  
(6月1日、元町プラザ)

けられる。

購入希望者はまず、日産自動車ディーラーの中古車展示場でベース車を選択。それを市内の車体組み立てメーカー「高田工業」がリニューアルし、ディーラーが整備・登録して納車する。価格は、中古車価格にリニューアル費（1,198,000円）を上乗せしたもので、おおむね2百万円程度になる。

ハマワザは地元の企業や大学、団体など20余りの組織が参加して2004年8月に設立。第一弾として、横浜らしさを追求した限定車「ycar（ワイカー）」の開発プロジェクトに取り組んできた。横浜市も経済活性化の中期ビジョンに盛り込まれた「メイド・イン・ヨコハマ」プロジェクトの一環として、ワイカー・プロジェクトを支援。

両者は、ムエットの開発で構築されたネットワークや知的財産を活用して、第二段のメイド・イン・ヨコハマの製品開発を考え始めた。